

報 告

日本福祉用具・生活支援用具協会（JASPA）東北復興福島車いすメンテナンス

川村義肢株式会社 大西 弘

1. はじめに

東日本大震災以後に宮城県・岩手県と「東北復興車いすメンテナンス」がおこなわれました。2013年10月に福島県のいわき市にて、宮城県・岩手県と同様に施設備品の車いすメンテナンスと座位保持に関するセミナーがおこなわれました。

2. 作業状況について

参加メンバーとして日進医療器・ミキ・松永製作所・カワムラサイクル・タカノ・JASPEC・同仁社・神奈川リハ・JAWS・川村義肢・他の参加者を含め21人+αの体制で対応しました。（17日に合流されたメンバーもあり）福島で2日間、3施設にて当初190台の予定でしたが最終的に232台のメンテナンス対応になりました。当日の準備物として、工具・補修部品・コンプレッサー・ケミカル関係・清掃道具などは以前の復興メンテの教訓を生かして準備をして臨んだのですが、台風の影響で初日の作業に合流出来ずに、2日目の訪問からの対応になりましたが「太陽の里いわき」では標準型車いすを含めリクライニング・ティルト機能を持つ車いすが多くこちらの施設では104台の対応になり、午後からの「中村病院」では67台の車いすの対応となりました。当日は点検表を使用しての点検作業と破損個所の確認と報告がメインの作業となりましたが、やはり車いすの点検をおこなう環境が十分ではない様子は地域を問わず整備環境が整っていない現状は共通だと感じました。作業として施設内での使用の車いすですが、磨耗や経年変化等による破損も確認されました。図1の場合は、エアーキャストのフォークにソリッド



図1

図2

のキャスト輪を組み合わせて使用されていましたが（図2）、キャスト輪の幅が細いため正規の取り付けと異なりボルトの先端が飛び出す状態ですが応急の対応をされた様子の車体も確認されました。タイヤの空気も抜けている車体もあり、車いすとして安全に利用するには、不安な状態の車体も多く確認されました。福島でのメンテナンスは無事終了しましたが、課題として考えさせられることも多くありました。訪問先のスタッフの皆さん、お忙しい時間に対応して頂きありがとうございました。車いすのメンテナンスの必要性も十分にお伝えすることが出来たことと思います。

3. まとめ

製品を安心して利用するためには、定期的に簡単な点検で対応出来ることも多くあります。しかしこれらについての問題は全国的ではないのでしょうか。製品の取り扱いの情報提供やリペーパーパーツの供給ができる製品の提案や提供。私たちが、やらなければいけないことは多くあります。安全に車いすや福祉用具を利用して頂くためにメンテナンスの人材の育成も必要であり、安全に使用していただく仕組み作りとして、今後もこのような活動を通して情報を提供することや関心を持ってもらうことなど安全に福祉用具を利用してもらう活動として、このような働きかけが必要だと考えます。

川村義肢株式会社

〒574-0064 大阪府大東市御領 1-12-1